

# あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-6100

FAX 0551-25-6103

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



共同生活事業所

日中支援型グループホーム **にこあす**

# 「道徳なき経済は犯罪であり、

## 経済なき道徳は寝言である。」

社会福祉法人 信和会  
理事長 栗原 信



新年明けましておめでとうございます。と素直に口にするのはばかれる新年の幕開けとなりました。お亡くなりになりました方々のご冥福をお祈りするとともに、被災にあわれた方々の一日も早い復興を願います。

さて、年末に令和6年2月21日・22日に開催される関東甲信越静ブロック社会福祉法人経営青年会 総会・研修会の案内が届き、講師の中に伊那食品工業最高顧問塚越寛氏の名前がありました。伊那食品といえば「年輪経営」を実践され、トヨタも経営の模範としている会社です。私も以前この本を読み感銘を受けました。塚越氏が経営の指針にしているのは二宮尊徳の「遠きをはかる者は富み、近くをはかる者は貧す」と言う言葉とのことです。曰く「遠きをはかる者は、百年のために杉苗を植う、まして春まきて秋実る物においてをや、故に富有なり、近くをはかる者は、春植えて秋実る物をも尚遠しとして植えず唯眼前の利に迷うてまかずにして取り植えずして刈り取る事のみ眼につく故に貧窮す」本当に示唆に富む言葉だと思います。現代社会は短期的な成果を求められる社会です。四半期決算ですので、四半期決算にて成果を出さないと上場企業であれば社長が首を切られる可能性もある時代ですので、短期的に成果を出し続け成長を果たしている会社もあるのですが、短期的に成果を要求されすぎ、結果的に歪みが生じた会社もあります。東芝、カネボウ、オリンパスなど有名企業が短期的な成果を追い求めすぎ、結果、不適切経理に手を染め、会社が解体されることになりました。短期的成果ももちろん大事ですが、あわせて「遠きを図る」ことこそ大事なのではないでしょうか。では、二宮尊徳の報徳の教えとは、尊徳自身が独学で学んだ神道、仏教、儒教などと、農業の実践から編み出した、豊かに生きるための知恵であり、神仏儒を究極的には1つにいたる異なる道に過ぎないと位置づけ、それぞれの概念を自由に組み替え説いていると言われています。

報徳の教えの中心的概念は太極であり、この太極にそった実践を行うということが根幹となっています。太極とはすべてのものが未分化な状態、一種の混沌状態をさし、つねにそこにあるものであるため、人間が何をしようが常に太極とともにある。しかしながら、人間は我であるため、つねに太極と何らかの関係をとらなければなりません。そこから太極に対して積極的に向かう姿勢を天道と太極と消極的に向かう人道の区別が生まれると言っています。尊徳は、天道にのみそって生きるころの構えを道心と呼び、人道にそって生きるころを人心と呼びました。道心とは、天の理にそって、私欲を捨てて生きることであり、人道とは私欲にとらわれた心であり、欲するばかりで作ることはありません。心が人道に囚われた状態にいる限り人間は豊かになることはできないとされ。道心にそった生き方をして、初めて人は真の豊かさを実現できると説いています。道心は、それが善だからなどの道徳的な理由で選択されるべきものではなく、人心に従えば衰え朽ち、道心に従えば栄えるという道義を説くに過ぎず、道心を立てた結果として、至誠・勤労・分度・推譲（すいじょう）を行っていくことではじめて人は物質的にも精神的にも豊かにくらすことができると言っています。福祉の世界も経営は厳しく、利潤を追求する会社が問題を起こし、規制が増え、記録の作成、会議の開催が増え利用者に接する時間の確保が大変になっており、何のために行っているのか考えることがあります。職員の採用も厳しく、職員が足りずに業務の負担が増えています。職員の心の充実感なくして利用者に対する良いケアは行う事はできません。尊徳はこのような事も言っています。「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である。」今年は報酬改定年であり、国家予算も厳しいことは理解しているが、「遠きを図る」ことこそ大事とし、しっかり福祉の職員の給与が上り、職員の採用が出来、経営が成り立つような予算を組んでもらいたいと思います。

# 本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390  
Tel:0551-25-6100  
E-mail: [honbu@sip-shinwakai.jp](mailto:honbu@sip-shinwakai.jp)



## 理事会・評議員会報告

\*今回の開催は、インフルエンザやコロナ感染対策に十分配慮し、対面開催とさせていただきます。

開催日時 : 【理事会・評議員会】

令和5年12月7日(木) 17:00~

開催場所 : 古名屋ホテル 会議室

審議事項 : 第1号議案 第一次補正予算(案)について

第2号議案 就業規則、運用規定の変更について

第3号議案 各事業所運営状況について



令和5年度第2回の理事会・評議員会は、コロナ禍ではありますが感染対策にも十分配慮して、令和元年以来の古名屋ホテルでの開催といたしました。第1号議案では、日中サービス支援型グループホーム“にこあす”の建設費に関する件、穴山の杜ショートステイの運営資金に関する件、わ〜く穴山の里トラック購入の件などに補正予算を組みました。第2号議案では、穴山の杜の就業時間の追加、わ〜く穴山の里運営規程の変更、共同生活事業所の運営規程の変更を提案いたしました。第3号議案では各事業所の事業所運営状況について報告いたしました。11月1日にオープンした“にこあす”も計画通りに入居や運営も進んでいること、杜ショートでは職員や利用者のコロナ感染が発生し運営に影響があったこと、その他の事業所は概ね順調に推移したことを報告いたしました。3つの議案とも承認いただきました。役員の変更もあり初顔合わせの方もおりましたので自己紹介も交えながら和やかに進められました。

## 日中サービス支援型グループホーム“にこあす” 竣工式執り行いました!



11月1日、昨年春より建設を進めておりました日中サービス支援型グループホーム“にこあす”が無事完成しおかげさまで竣工式を迎えることができました。工事に携わった皆様、地域の皆様のご協力の賜物と心より感謝いたします。高齢になった障害者を受け入れできる24時間対応型のグループホームです。今後障害者が高齢者介護サービスを受けられる地域移行の一つの形です。



# 穴山の里

障害者支援施設 穴山の里  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164  
TEL0551-25-5900  
E-mail : [sato@sip-shinwakai.jp](mailto:sato@sip-shinwakai.jp)



## 登竜門～今年は挑戦の年～

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。  
今年は「辰年」、辰＝龍といえば、「登竜門」という言葉がありますが、これは、「竜門」という流れが急な川を上った鯉は、竜になる、といわれる伝説から来ている言葉です。  
難しい時代ですが、乗り切った後に幸せが来ることを信じて今年も頑張ります。



施設長 栗原 信

## 厚生労働大臣表彰 ～利用者との歩みの中で～

穴山の里の開設時に、障害を抱える人を知らないまま入社しました。施設に入所する利用者との関りを、どのように進めていけばよいのか戸惑う場面も多くありました。その中で、故栗原信雄会長より、利用者は「自分の子供」と思って接しながら日々の生活支援を進めて行くことが大切である。また、業務に当たっては「率先垂範」に心掛けていくことを教えて頂きました。そのことを胸に刻み、日々の生活支援を進める事で信頼関係が構築され、利用者へ寄り添った支援が徐々に来るようになってきました。業務においては、利用者及び職員の方々の手助け等もあり、38年間の長きに渡り勤め、厚生労働大臣表彰を頂くことが出来ました。今後も、利用者が楽しい生活を送れるように努めて参ります。

生活支援員 窪寺 勝則



## クリスマス会



12月23日に毎年恒例のクリスマス会を行いました。今年はインフルエンザ蔓延の関係上延期になってしまった文化祭も一緒に行いました。文化祭用の展示作品を鑑賞したり、クリスマス会の余興の二人羽織を職員と利用者共同で行ったり、変装当てクイズを楽しんだりして過ごしました。食事はハンバーガーやケーキを提供し利用者へ好評でした。

## 鷲宮神社の清掃

農業奉仕班の皆さんで神社の清掃を行いました。枯葉の清掃を寒い中、頑張ったおかげで綺麗になりました。



## 初詣！参拝へ...



今年も年の初めに鷲宮神社へ参拝しに行きました。長く高い階段が良い運動になりました。本年もよろしくお祈りいたします。



## 正月遊び



1月2日に正月遊びを行いました。福笑いや、かるたをして楽しみました。面白いお顔が出来たと笑顔になりました。



# わ〜く 穴山の里

多機能型事業所 わ〜く穴山の里  
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1  
TEL : 0551-25-5866  
E-mail : [work@sip-shinwakai.jp](mailto:work@sip-shinwakai.jp)



## 今年も張り切ってスタートします



### 見て！知って！感じる時間



今年度も多くの皆様から見学希望の機会を  
いただいております。令和5年度現在、14  
8名の皆様にわ〜くの活動を見て、聞いて、  
体感していただきました。

中でも韮崎市立北東小学校の4年生の皆さんには、障がいを持つ方も私達と同じように「はたらく」姿を見て、驚きと感動でいっぱい  
の感想をいただいております。

地域の中にあるわ〜くです！



### 今年も「はたらく」わ〜くです

昨年は新たに繋がる企業様もあり、今までにない充実した作業内容で進めることが出来ました。今年もいきいきと活躍できる場所、役割を意識してまいります。



# 共同生活事業所

共同生活事業所 (ここあす内)  
〒407-0263 韮崎市穴山町 4462-2  
TEL : 0551-45-9830  
E-mail : [kyoudou@sip-shinwakai.jp](mailto:kyoudou@sip-shinwakai.jp)

日中サービス支援型グループホーム【ここあす】も開所から2ヵ月が経ちました。様々な活動を通じて利用者の生活の質を向上させる事を目指しています。これまでの活動の様子をご紹介します。

## 機能訓練

身体や認知機能の維持・向上させるための活動を行なっています。割り箸をペットボトルに入れる作業は、細かい動作や手の指先を使うことで、手の筋力や器用さ、集中力を鍛えることができます。ペットボトルの色分け選別では、視覚を使って正確に分類する力を養います。風船を使った遊びや散歩なども行なっています。



## 刺し子

刺し子は藍色の木綿布に白糸で刺すものが定番ですが、半纏に文字・文様等を入れる関係で白い糸で刺し子生地を織った後、文字・文様部分を白抜きして染色するものもあります。布・糸ともにカラフルな色合いの物も出てきている。糸を使って模様を織り出す伝統的な手芸で、丁寧な作業を通じて集中力や手先の動きを養うことができます。



## パフェ作り

フルーツやアイスクリーム、バラエティー豊かなトッピングを使用して、自分好みのパフェを作りました。パフェ作りは、楽しみながらも、食材の選択や調理方法を学ぶ機会となっております。



# 穴山の杜

特別養護老人ホーム穴山の杜  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390  
TEL0551-25-6100  
E-mail : [mori@sip-shinwakai.jp](mailto:mori@sip-shinwakai.jp)

気候変動の影響からか、世界各地で異常な乾燥や降雨で悲惨な被害をもたらし、甚大な損害を出しております。その主たる原因は二酸化炭素を排出する化石燃料であるといわれています。当施設では早くから、太陽光発電による電力費用削減の効果と CO2 削減に貢献する活動に微力ながら取り組んでおります。また、異常気象による風水害・地震・災害の発生時に入居者の安全を確保し、困難な状況でも施設事業を継続できる施策 BCP を策定し、非常災害に備えております。



## 委員会紹介

介護力向上委員会

委員長 宮本紗英

先日、安全衛生委員会と合同で“ポジショニング研修”を行いました。ポジショニングとは、リラックスしてしっかりと休める姿勢を作り、また動きやすい姿勢で褥瘡も予防出来る姿勢ケアの事です。その為、体位交換とは似ているようで大きく異なります。その違いを、参加者がモデルになってもらい、体験をしていただきました。参加者からは「圧のかかり具合がわかった」「クッションを隙間なく埋める事が大切だと分かった」といった声が聞かれ、ポジショニングの必要性を伝える事が出来ました。また、座学と実技と両方を行った事により理解が深まったのではないかと思います。

今回の研修では、委員が講師となって行いましたが、私自身ポジショニングについての理解が出来ていなかった部分があったと感じました。人に教えるには、まず自分が理解する必要があると身を持って感じたので、これからの研修では、十分に理解をした上で研修に望むよう努めていきたいと思っております。今回の研修で終わりではなく、現場で活かして初めて意味のあるものになるので、ポジショニングを各ユニットで確実に出来るよう、呼びかけや助言など行っていきます。

祝  
百歳



雨宮ひろじ様が12月のお誕生日で100歳を迎えられました。ご家族や施設からのお花、表彰状を受け取り、驚いたご様子。皆さんから祝福を受けていらっしゃいました。これからも元気で過ごしてください！

YCATの一員と

なりました！

看護師 鶴田阿由美

昨年4月から始まった、令和5年度山梨県感染症危機管理対応専門人材養成研修が、12月16日に全て終了し、この度“やまなし感染管理支援チーム(YCAT)”となり、活動を始める事となりました。感染症疫学講習・演習を11回、実地研修3回をこなし、大変な道のりではありましたが、学んだ事を自施設はもとより、地域医療に反映し貢献出来るよう頑張っていきます。そして、このような機会を与えていただき心から感謝致します。



今日は楽しい

クリスマス会

鶴フロア・亀フロアそれぞれでクリスマス会が行われました！ケーキのスポンジの土台を用意し、デコレーションをユニット毎で行いました。バナナなどのフルーツやサンタやトナカイのメレンゲドールを飾り付け、色鮮やかなクリスマスケーキとなりました！大きなツリーの前でペロッといただきます。白と赤のサンタ帽子やトナカイの角のカチューシャを身に付けて記念撮影にニッコリ♪にんまり♪



面会方法が変わりました

ご面会場所が1階ホールに変更となりました。マスク着用やアクリル板越しでお願いしておりますが、ご家族を近くに感じられるようになったと思われれます。コロナウイルスやインフルエンザなど感染症は流行しており、引き続き感染予防に努めて参ります。ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

# 穴山の杜短期

穴山の杜 短期入所生活介護事業所  
〒407-0263 韮崎市穴山町 4410-3  
TEL : 0551-25-0800  
E-mail : [moritanki@sip-shinwakai.jp](mailto:moritanki@sip-shinwakai.jp)

## 令和6年を迎えて

事業所長 横森 潔

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。  
令和6年の幕開けは、元日の夕刻に突然襲ってきた「令和6年能登半島地震」でした。被災した方々に対しお見舞い申し上げます。東日本震災から10年、その間熊本地震にも襲われ、我が国の防災意識は従前に比べ大きく変容しました。今回の災害を「対岸の火事と」思うことなく、日々防災意識を強くもち、利用者が安心安全に過ごしていただける施設運営を心掛けたいと思います。今後ともご家族、職員が連携し、利用者の幸せのために鋭意努力いたします。よろしくお願ひいたします。



季節の行事として「焼きいも大会」をしました。前日に、男性利用者と職員で施設周辺の落ち葉を集め、女性利用者がアルミを巻いて頑張り準備万端。当日は秋晴れにも恵まれ、焼き上がるまで野山の紅葉も楽しめました。出来上がった“あつあつ”の芋を頬張り『ホクホクして美味しい!』『懐かしい』など目もお腹も秋を満喫されました。



## 焼きいも大会 & クッキー作り

プレーン・チョコ・抹茶のクッキー作りをしました。手先のリハビリも兼ねて、捏ねる・平伸ばし・型抜きなど分担し、お料理好きな利用者が中心となり、『子供に作ったよ』など昔話にも花が咲きました。ホールにも香ばしい香りが漂い、自分達で作成したクッキーは味も格別でした。



賀  
春

元旦は前日からの雨もあがり初日の出も拝め、新年を迎えました。早速、施設の風物詩である“穴山神社”に初詣をし、おみくじも引きました。昼食にはお屠蘇やお節料理、お雑煮を堪能しました。午後には、かるたやトランプなどを楽しみながらゆっくりとした正月を過ごしました。

余暇活動で、お正月に飾る門松を制作しました。利用者の皆様は、折り紙を折る作業や、ハサミやのりを使いこなす表情も真剣そのものでした。また、竹はトイレトーパーの芯を利用しました。完成し飾ると、いっそうホールが華やかになりお正月ムード一色となりました。1日には絵馬にも願ひ事を書き奉納しました。



## 太陽光パネル設置

昨年11月に事業所東側の屋根部分に着工した「太陽光発電システム」の工事が12月27日に終了し、正常に稼働を開始しました。当事業所では利用者の健康管理上、年間を通してエアコンを稼働し、館内の温度管理を必要としているため、電力消費が大きく、財政を圧迫しておりました。日の出から日没まで日当たりが非常に良く、1日約90Kwの発電が可能となり、日中の電気使用量を大きくカバーできることとなりました。山梨県による「再エネ省エネ対策補助事業」によるものですが、ありがたく有効活用して快適な施設利用につなげていきたいと思ひます。



ジングルベル♪ジングルベル♪の音楽が流れると甘いケーキが登場しました。それぞれ苺ショートやモンブランなど好みのケーキを選びコーヒーと共に食されました。会話も弾み心に帰られ楽しい時間となりました。



クリスマスに皆様大好物の“握り寿司”が提供されました。『大きいお寿司!! どれから食べよう』『久しぶりのお寿司で美味しい』と大満足の様子で完食されました。



## 感謝録

(令和5年10月1日から令和5年12月31日)

～ご寄付を頂きました～ (敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

滝沢 哲・木島廣子・中川智之・村田正恵・中澤冬里・  
柴田正雄・宮本美千代・岡野チヅ子

～ご協力を頂きました～ (敬称略)

☆ボランティア

永井萬喜子・生山澄江・田中康子

令和6年1月1日 鳴り響く緊急地震速報と突然の揺れを感じ、身を屈めました。

継続的に備えている震災への対策を改めて総点検をする機会だと感じています。信和会ではBCP(事業継続計画)を策定中です。多くの利用者、職員、その家族又、地域の皆さんの命を守るため関係機関との連携も欠かせない内容となります。また、各家庭においても備えておく項目もあります。この機会に総点検をお願い致します。

### 1. 家の周辺の安全チェック

植木やプロパンガスなどが転倒、落下しないように整理整頓しておきましょう。また、ブロック塀や屋根瓦などの強度の確認もしておきましょう。

#### ・屋根の点検

屋根の点検 不安定な瓦やアンテナは補強を

#### ・ブロック塀などの安全対策

土中に30センチメートル以上の基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険です。しっかり補強を。

#### ・プロパンガス

プロパンガスボンベを鎖でしっかり補強

#### ・ベランダの点検

植木鉢などの整理整頓を

### 2. 家族で防災会議を開きましょう

地震・火災・風水害に備えて、家族で以下のような話し合いをしておきましょう。

- ・家の中で安全な場所はどこか
- ・応急手当の知識を身につける
- ・消火器具などの安全点検
- ・火気器具などの安全点検

## 訪問録

(令和5年10月1日から令和5年12月31日)

☆教育実習・職場実習 (敬称略)

◎帝京学園短期大学

渡部溪成

## 災害が起きる前に

- ・避難場所、避難道路の確認
- ・家族の役割分担
- ・万が一の際の家族との連絡方法・集合場所
- ・非常持ち出し品の点検、置き場所の確認

### 3. 生活必需品(非常用品)の準備

災害発生後、数日間は生きていくために必要なものが供給されないという事態が発生します。自宅で生活する上で必要な生活必需品を日頃から、備えておくことが大切です。また、いざという時に最低限必要な品をすぐに持ち出せるよう非常用持ち出し袋を準備し、置き場所も考えておきましょう。

<input type="checkbox"/> 水、水筒	<input type="checkbox"/> 救急箱	<input type="checkbox"/> 携帯トイレ	<input type="checkbox"/> ライター	<input type="checkbox"/> 食品	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ
<input type="checkbox"/> 地図	<input type="checkbox"/> ロウソク	<input type="checkbox"/> エマージェンシーセット・ブランケット	<input type="checkbox"/> ホイッスル	<input type="checkbox"/> 衣類	<input type="checkbox"/> 懐中電灯
<input type="checkbox"/> 乾電池	<input type="checkbox"/> 哺乳瓶	<input type="checkbox"/> 現金(小銭)	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> 携帯電話用充電器	<input type="checkbox"/> 貯金通帳
<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> 防災頭巾	<input type="checkbox"/> 印鑑	<input type="checkbox"/> 軍手	<input type="checkbox"/> ナイフ・缶切	

### 4. 食の備え

地震だけではなく台風などで大きな被害が出たときなどは、食品が入手できない、調理できないなど食生活にも支障が出る可能性があります。

日ごろから、自分自身と家族や周りの方の「食」のために、最低3日分、できれば1週間分の食品を備えておきましょう。

備えるものは、「災害時のためだけのもの」とは考えず、ふだんから、日常使いの食品や日持ちのする食品を少し多めに購入しておくようにしましょう。また、購入した食品は、賞味期限などを考慮して、「1つ食べたら、1つ買い足す」ローリングストックの考え方で消費しましょう。

## 編集後記

地震が発生した地域において、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。自然災害の中で最も恐ろしい瞬間の一つである地震が、多くの方々に影響を与えたことに深い悲しみを感じています。私達は組織として、社会と共に喜びを分かち合い、困難な瞬間にはお互いに支え合うことが大切だと考えています。地震で被害を受けた地域の方々が一日でも早く復興され、安心して生活できるよう、私達のできる範囲で支援を続けていきたいと思っています。機関誌ではこのような悲しいニュースをお伝えすることがありますが、その中で私達の共感と支援の気持ちを伝えることも重要です。日ごろの小さな努力や思いやりが、大きな助けとなります。また、職員一人ひとりができる範囲で、支援の手を差し伸べ、被災者の方々の立ち直りを共にサポートしていきましょう。最後になりますが、地震で被災された皆様、どうかお体を大切にされ、これからの復興に向けて一丸となって前進していけることを心より願っております。(山下)